

復活節第三主日 2017.4.30

エマオへの道、エマオからの道

ルカ 24 章 13-35 節

24:13 この日（すなわち週の初めの日）二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、

24:14 この一切の出来事について話し合っていた。

24:15 話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。

24:16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。

24:17 イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。

24:18 その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」

24:19 イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。

24:20 それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。

24:21 わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。

24:22 ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、

24:23 遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。

24:24 仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、

あの方は見当たりませんでした。」

24:25 そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、

24:26 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」

24:27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

24:28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。

24:29 二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。

24:30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

24:31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

24:32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

24:33 そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、

24:34 本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。

24:35 二人も、道で起こったことや、パンを裂いて下さったときにイエスだと分かった次第を話した。

説教

エマオの場所のはっきりとわかっていません。いろいろな説はありますが、そのことにとらわれる必要はありません。なぜなら、わたしたちはエマオはすべ

ての場所を表すと考えることができるからです。エマオへの道は、すべてのクリスチャンが歩む道です。そして、すべての人が歩む道でもあります。復活したイエスは、わたしたちとともに道を歩いてくださいます。それは、わたしたちの心に信仰と希望の炎をあらためてともし、永遠のいのちのパンを裂いてくださるためです。

わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。24:21a
信じ、従い、希望しました。……しかし、今やすべてが終わりました。ナザレのイエスは力のある預言者でした。このかたでさえも、失敗したので落胆しました。

このエマオの弟子たちの悲劇は、いまのわたし達と同じように思われます。信仰に基づく希望は挫折したように思われます。自分にふりかかるいろいろな出来事は信仰そのものの危機となっています。わたしたちは主から見放されたように感じます。

けれども、わたしたちも歩むこのエマオへの道は信仰の道です。今日もわたしたちは、イエスと語り合い、イエスのことばに耳を傾けることができます。今日もイエスはわたしたちのためにパンを裂き、ご自身をわたしたちのパンとして与えてくださいます。復活したキリストと出会うことは、今日もできます。そしてこの出会いは、わたしたちにいつそう深く真の意味での信仰を与えてくれます。力強い信仰は、人間の考えによってではなく、神のことばと、聖餐におけるパンとワインによって養われます。

そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻って…24:33a

二人の弟子は裂かれたパンを見て、目的地であるエマオを直前にしながら、仲間たちのいるエルサレムへと引き返しました。

エマオへの道ではなく、エマオからの道。

わたしたちも礼拝がおわるとそれぞれの道をとおり帰り道を歩みます。こうた

とえることもできます。エマオとは教会であり、礼拝です。でも、このたとえはちょっとおかしい、というのはエマオへの道すがらイエスはクレオパたちに現れ、道中彼らを教えました。そして彼らがイエスご本人ということ気付くとイエスは彼らの目から消えます。彼らはエマオへはいかずにエルサレムに戻ります。じゃエルサレムを教会にたとえるほうがいいのでしょうか。ルカが伝える福音や言行録ではエルサレムに教会ができます。そして史実ではエルサレムの教会は西暦70年ごろになくなっていきます。エルサレムを教会にたとえることもへんです。とすると教会はどこにあるのか、それはエマオへの向かう道中といえるかもしれません。また逆にいえば、エマオからの帰り道にあるのかもしれません。

あるときイエスさまはエルサレム神殿を前に、わたしは三日で建てるといわれました。またパウロはあなたがたの体が神殿です、と諭しています。

一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。 24:28

イエスさまが行こうとされているところはわかりません。わかったふりをするのはやめましょう。人智を越えたところを目指されています。クレオパたちと同じようにわたしたちもエマオへの道ではなく、エマオからの道を歩みましょう。なんかいたりきたりしているみたいですが、それを教えているのだともいいます。